



立野

練馬区立立野小学校

平成26年 5月号

<http://www.tateno-e.nerima-ky.ed.jp>

適応力を育てる

校長 岡本 昌子

新年度がスタートして、あっという間に一ヶ月が過ぎようとしています。子供たちは、新しい環境に慣れて元気に過ごしているのでしょうか。友達と仲良く過ごしているのでしょうか。私も、4月中は、授業中の教室だけでなく、登校の様子や休み時間の校庭等も見回り、子供たちの学校生活を見守ってきました。

その中で、今年度、子供たちが特にながらんでいることをいくつか見付けて、とてもうれしく感じています。1つ目は、あいさつの声が元気になったことです。年度初めの6年生児童によるあいさつ当番の成果でしょうか。自分から進んで大きな声であいさつできる子が増えています。2つ目は、時間を意識して生活できていることです。休み時間、どんなに遊びに夢中になっても、予鈴が鳴ると、駆け足で昇降口に向かう姿が見られます。手洗いやうがいを済ませて、チャイムと同時に学習が始まっています。そして、もう1つは、朝会や集会に遅れてくる子がほとんどなく、しっかり落ち着いて話が聞けていることです。この3つは、多くの子供が集団で学ぶ学校においては、どれも大切な生活習慣です。ぜひ、年間を通じて続けていきたいものです。

一方、気になることもあります。このような一見落ち着いた学校生活の中で、新しい環境に馴染めず、心が疲れている子がいないかということです。この時期、どの学年でも、新しい環境にすんなり馴染める場合もあれば、友達関係に悩んだり、新しいシステムになかなか慣れることができなかったりして、心と体に疲労を蓄積してしまう場合もあります。

このようなときでも、まわりの大人から適切なサポートがあれば、慣れなかった環境に次第に馴染んだり、友達関係が改善されたりして、しだいに環境に適應できるようになります。けれども、現実と子供の想いとのギャップがあまりに大きいと、どんなサポートもうまくいかず、どんどん心のダメージが深まっていくという場合もあります。その場合は、環境の方を少し変えてしまったほうがよい場合もあるでしょう。

この際、大切なのが、「子供の心の状態を正しく見取る」ということです。子供たちは、これから広い社会に出て、様々な環境のもとで生活していかなくてはなりません。自分にとって、快適な環境でなくてもがんばらなくてはならないこともあるでしょう。あまり安易に、環境を変えていたのでは、子供たちの適応力は培われません。しかしながら、学校に足が向かなくなるほど、無理に続けさせても、結果的には良い方向にいきません。私たち教員は、子供の学校生活の様子や表情から、一人一人の子供たちの現状を正しく見取り、今、どんなサポートが必要なのかを探っていきたいと考えています。保護者の皆様も、子供たちの様子で、気になることがございましたら、早目にご相談ください。担任はもちろん、管理職、専科教員、心のふれあい相談員、スクールカウンセラーも、お話をお聞きして、子供たちの生活を見守り適切なサポートをしていきたいと考えています。

保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

携帯電話の校内への持ち込みについて

携帯電話の普及に伴って、小学生でも利用している子供が増えています。しかしながら、学校では、「学習に必要なものは学校に持ってこない」というルールで子供たちに指導していますので、携帯電話の校内への持ち込みは、ご遠慮いただいております。

特別な事情がございましたら、担任まで必ずご相談ください。なお、新年度で担任も替わっておりますので、前年度ご相談いただいている場合も、改めて連絡帳でお知らせください。